

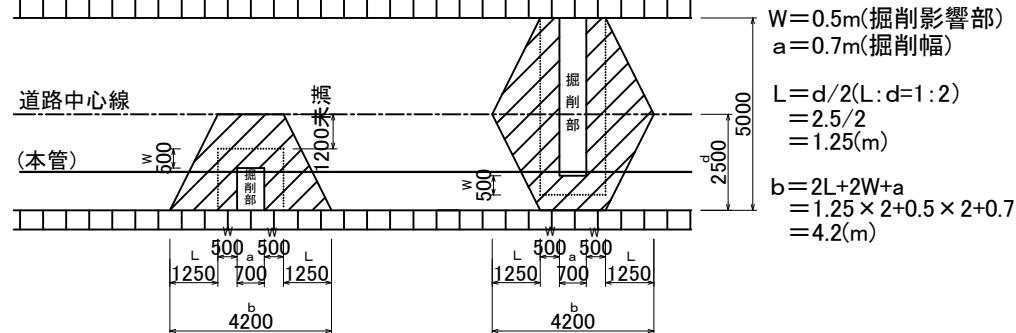
道路舗装復旧平面図

基本事項

- ・横断方向の掘削影響部が道路中心線を越えた場合、または車道幅員4.2m未満の場合は原則全幅員復旧とする。
- ・2箇所以上の掘削で、掘削部の間隔が10.0m以下(車道幅員4.2m未満は5.0m以下)の場合、一体で復旧とする。
- ・掘削影響部は縦横断方向とも0.5mを基本とする。
- ・掘削影響部から道路中心線(および側溝)までが1.2m未満の場合は、道路中心線(および側溝)までを復旧範団とする。

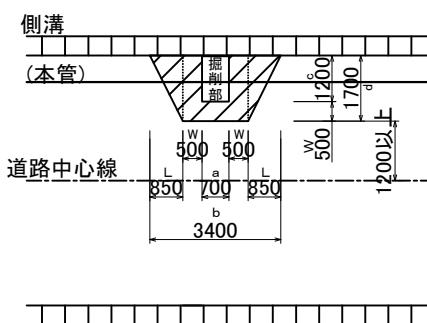
①横断占用

(例)



②小穴占用 (掘削影響部から道路中心線および側溝までが1.2m以上の場合に適用)

(例)

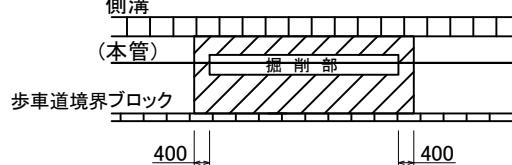


$$W=0.5\text{m}(掘削影響部)
a=0.7\text{m}(掘削幅)
c=1.2\text{m}(掘削部横断延長)
d=W+c
=0.5+1.2
=1.7(\text{m})
L=d/2(L:d=1:2)
=1.7/2
=0.85(\text{m})
b=2L+2W+a
=0.7+2 \times 0.5+2 \times 0.85
=3.4(\text{m})$$

③歩道部

- ・縦断方向の影響範囲は0.4mとし、全幅復旧とする。

(例)

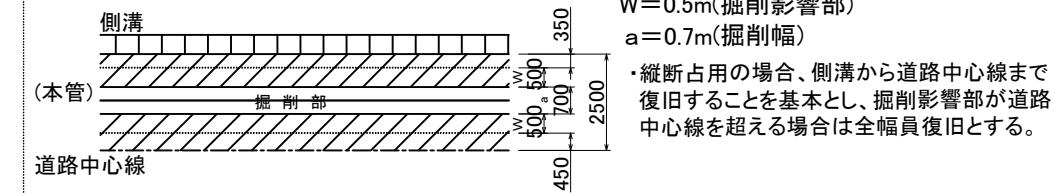


※道路の復旧条件

- ・仮舗装の道路、その他道路管理者が認めた場合はこの限りでない。
- ・「道路舗装復旧平面図」に定められていない場合は道路管理者と協議すること。
- ・既設舗装目地を考慮(復旧計画線から1.0mの範囲)し舗装復旧範囲とすること。
- ・区画整理区域は、別途協議すること。
- ・施工完了後、右記の印を付すこと。

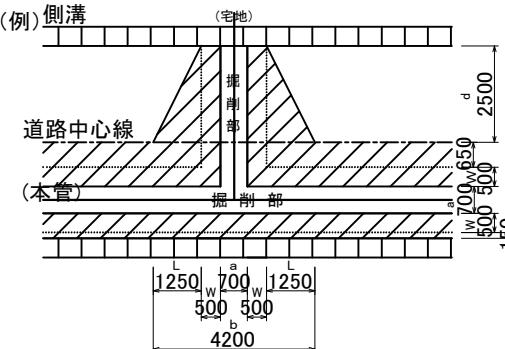
④縦断占用

(例)



⑤縦断占用と連続する横断占用の復旧範囲

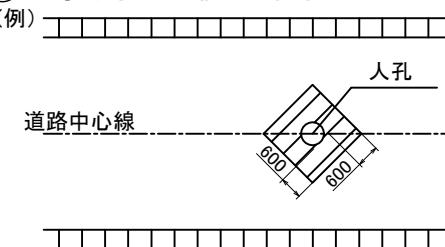
(例)



$$W=0.5\text{m}(掘削影響部)
a=0.7\text{m}(掘削幅)
L=d/2(L:d=1:2)
=2.5/2
=1.25(\text{m})
b=2L+2W+a
=1.25 \times 2 + 0.5 \times 2 + 0.7
=4.2(\text{m})$$

⑥人孔周りの復旧範囲

(例)



- ・高さ調整など軽微なもの場合のみ適用。
- ・掘削が深い場合はこの例にはならない。

<本復旧箇所の明示>

- | | |
|---------|---|
| 電気通信事業者 | T |
| 電気事業者 | E |
| 水道業者 | W |
| 下水道業者 | D |
| ガス事業者 | G |